



# JICA-ASEAN 連携ラオスパイロットプログラム (LPP)

(独) 国際協力機構ラオスパイロットプログラム (LPP)

チーフアドバイザー 菊地 文夫

## 1. LPP の概要

「JICA-ASEAN 連携ラオスパイロットプログラム (LPP)」は、ASEAN 事務局と JICA が連携して ASEAN 統合に向けた格差是正のためにラオス政府を支援する三者協力プロジェクトである。これまで JICA の協力は主に二国間の協力の枠組みで行われてきているが、ASEAN と連携することにより国、地域、開発の三つの特徴を反映させた協力及び成果を目指している。

LPP の協力内容は ASEAN 統合に資することが重要な課題であり、またラオスの経済、社会、文化的な背景を踏まえて、同国の強みを生かした開発への協力が求められ、2010 年 2 月にビエンチャンで開催された LPP 立ち上げワークショップにおいて、協力戦略のコンセプトを「Clean, Green, Beautiful Laos」と設定し、Clean Environment と Green Economy の 2 つのテーマの下で協力を進めていくことで合意されている。

LPP の協力対象分野については、①ASEAN 統合ロードマップの実施に資すること、②ラオスの開発戦略・計画に整合的であること、③三者協力プロジェクトとして ASEAN からの協力リソースの投入が可能かつ有効であること、④日本の対ラオス国支援方針と合致していること等を主たる要素としてスクリーニングを行った結果、観光、農業、環境の 3 分野を対象とすることで、三者の合意形成がなされた。対象の 3 分野の活動は LPP の枠組みの中で平行して進められている。LPP の環境管理コンポーネントにおいては、域内の環境保全をふまえた持続的な開発の必要性について、ASEAN 統合ロードマップの 1 つである ASEAN 社会・文化共同体ブループリント「Ensuring Environmental Sustainability」に明記されている分野の 1 つである「環境的に持続可能な都市 (Environmental Sustainable City)」(ESC) について取り組むこととなった。

本環境コンポーネント実施のため、2011 年 8 月からコンサルタントチームが派遣され、本格的な業務が開始されている。

## 2. 環境コンポーネントの概要

LPP プロジェクト全体の目標は ASEAN 統合に向けた域内格差是正のためのラオス国政府、ASEAN 事務局、JICA による三者協力のメカニズムを構築することを目指しているが、環境コンポーネント

の目標と成果は以下のとおりとなっている。

<目標>：ラオス国において、AIESC にもとづき、ESC づくりが促進される。

<成果 1>：国家環境戦略 2020 及び関連する戦略やアクションプランにもとづき、ESC ガイドラインが策定される。

<成果 2>：ESC ガイドラインにもとづき、3 つのパイロットサイトにおいてカウンターパート機関の都市環境管理能力が強化される。

<成果 3>：3 つのパイロットサイトにおいて住民参加型の都市環境管理が促進される。

ラオス国においては、ESC として三都市（首都ビエンチャン、ルアンプラバン、サヤブリ）が登録されており、本プロジェクトのパイロットサイトもこれらの三都市を対象にして実施することとしている。

ESC ガイドラインで適用すべき環境分野から総合的に判断して、基礎情報の対象となる都市環境分野 31 項目を定め、対象三都市のベースライン調査を実施し、収集した情報の分析及び問題点抽出を行っている。

同分析結果を踏まえて、現在 ESC ガイドラインのドラフトを作成中であり、関係者間で協議を進めていることである。ラオス側は本ガイドラインの導入に極めて高い関心を示しており、対象となる三都市のみならず、他の地域への導入についても検討を始めているところである。

なお、今後実施を予定しているパイロットプロジェクトは廃棄物処理分野を中心とすることを想定しており、同分野での具体的な成果を ESC ガイドラインに反映することとしている。

## 3. 今後の課題

アセアン加盟国は各三都市程度を ESC としての登録を行い、アセアン ESC ネットワークを形成し、各国の取り組みを共有し、ESC の促進を図ろうとしている。本プロジェクトでは、三者協力の枠組みを有効に活用し、ラオス国のみの ESC ガイドラインにとどめることなく、アセアン各国においても活用できるガイドラインの作成を目指し、今後アセアン各国と意見交換をしながら実践的なガイドラインを作成していく予定である。